

耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度Kh=1.0)

1. 機種 = 天井埋込形室内ユニット

2. 形名 = PEFY-P80・90MG3, 4形

3. 機器諸元(図1参照)

(1)機器質量(運転質量) $W = 58$ kg

(2)アンカーボルト

①総本数 $N = 4$ 本

②サイズ・形状 $M = 10$ 形

③1本当たりの軸断面積(呼径による断面積) $A = 78$ mm² = 78×10^{-6} m²

④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 $N_t = 2$ 本

(3)据付面より機器重心までの高さ $H_g = 210$ mm = 0.21 m

(4)検討する方向からみたボルトスパン $L = 814$ mm = 0.814 m

(5)検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 $L_g = 394$ mm ($L_g \leq L/2$) = 0.394 m

4. 検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1)設計用水平震度 $K_h = 1.0$

(2)設計用鉛直震度 $K_v = K_h / 2 = 0.5$

(3)設計用水平地震力 $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 568.4$ N

(4)設計用鉛直地震力 $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 284.2$ N

(5)アンカーボルトの引抜力 $R_b = \frac{F_h \cdot H_g + (W \cdot 9.8 + F_v) \cdot (L - L_g)}{L \cdot N_t} = 293.3$ N

(6)アンカーボルトのせん断力 $Q = F_h / N = 142.1$ N

(7)アンカーボルトに生ずる応力度

①引張応力度 $\sigma = R_b / A = 3.8$ MPa < $f_t = 176.4$ MPa

②せん断応力度 $\tau = Q / A = 1.8$ MPa < $f_s = 132.3$ MPa

③引張とせん断を同時に受ける場合 $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6\tau = 244.0$ MPa

$\sigma = 3.8$ MPa < $f_{ts} = 244.0$ MPa

(8)アンカーボルトの施工法

①アンカーボルトの施工法 = 埋込式L形アンカ-

②コンクリートの厚さ = 150 mm = 0.15 m

③ボルトの埋込長さ = 110 mm = 0.11 m

④許容引抜加重 $T_a = 3528$ N > $R_b = 293.3$ N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分なる強度を有する。
本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。

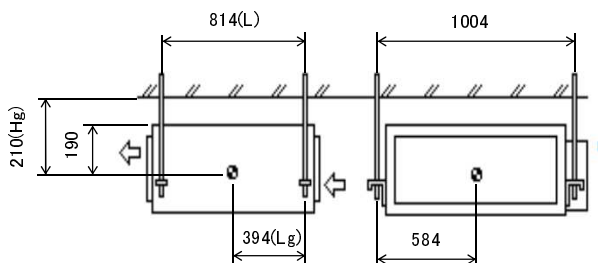


図1

三菱電機株式会社	作成日	16-06-10	仕様書番号	WYNB1-1966	副番	—
----------	-----	----------	-------	------------	----	---

耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度 $K_h=2.0$)

1. 機種 = 天井埋込形室内ユニット
 2. 形名 = PEFY-P80・90MG3, 4形

3. 機器諸元 (図1参照)

(1) 機器質量 (運転質量) $W =$ 58 kg
 (2) アンカーボルト
 ① 総本数 $N =$ 4 本
 ② サイズ・形状 $M =$ 10 形
 ③ 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積) $A =$ 78 mm² = 78×10^{-6} m²
 ④ 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 $N_t =$ 2 本
 (3) 据付面より機器重心までの高さ $H_g =$ 210 mm = 0.21 m
 (4) 検討する方向からみたボルトスパン $L =$ 814 mm = 0.814 m
 (5) 検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 $L_g =$ 394 mm ($L_g \leq L/2$) = 0.394 m

4. 検討計算 (各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1) 設計用水平震度 $K_h =$ 2.0
 (2) 設計用鉛直震度 $K_v = K_h / 2 =$ 1.0
 (3) 設計用水平地震力 $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 =$ 1136.8 N
 (4) 設計用鉛直地震力 $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 =$ 568.4 N
 (5) アンカーボルトの引抜き $R_b = \frac{F_h \cdot H_g + (W \cdot 9.8 + F_v) \cdot (L - L_g)}{L \cdot N_t} =$ 439.9 N
 (6) アンカーボルトのせん断力 $Q = F_h / N =$ 284.2 N

(7) アンカーボルトに生ずる応力度

① 引張応力度 $\sigma = R_b / A =$ 5.6 MPa < $f_t = 176.4$ MPa
 ② せん断応力度 $\tau = Q / A =$ 3.6 MPa < $f_s = 132.3$ MPa
 ③ 引張とせん断を同時に受ける場合 $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6\tau =$ 241.1 MPa
 $\sigma =$ 5.6 MPa < $f_{ts} =$ 241.1 MPa

(8) アンカーボルトの施工法

① アンカーボルトの施工法 = 埋込式L形アンカー
 ② コンクリートの厚さ = 150 mm = 0.15 m
 ③ ボルトの埋込長さ = 110 mm = 0.11 m
 ④ 許容引抜加重 $T_a =$ 3528 N > $R_b =$ 439.9 N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分な強度を有する。
 本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。

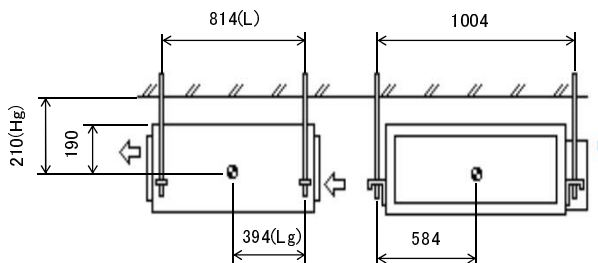


図1

三菱電機株式会社	作成日	16-06-10	仕様書番号	WYNB1-1967	副番	—
----------	-----	----------	-------	------------	----	---